

# えんちょう通信

No.101

令和5年7月4日  
福島市立清水幼稚園  
発行者 佐藤一男

## 「ほかに ききたいこと ある人?」、「はい！」

先週の6月28日(水)、5月と6月生まれの子の誕生会を行いました。今回、誕生日を祝ってもらったのは4名です。

いつものように、最初にみんなで「たん たん たん たん たんじょうび・・・」と歌をうたってお祝いしました。

その次に、誕生日を迎えた4人の子どもたちに、司会の子がインタビューをしました。最後の子の番になりました。

「好きな食べ物はなんですか?」。すると「ウインナーです。」と答えます。

さらに「好きな生き物はなんですか?」ときかれて、その子は「お魚です。」と、嬉しそうに答えます。

最後に、司会の子が周りの子に向かって「ほかにききたいことがある人はいませんか?」と言うと、みんな一斉に「はい!」と元気一杯に手を挙げます。

とにかく何かきかれましたら、手を挙げる。子どもたちは「はい!」と、手をあげながら「質問」を考えているのかもしれませんが。中には勢いで「はい!」と手をあげている子もいるかもしれませんが。ですが、とにかく「はい!」と、手をあげた瞬間、子どもたちは、頭の中で、いろいろなことを全力で考え始めるのだらうと思います。

わたしは、そういう子どもの好奇心旺盛というか、意欲的というか、「とにかく反応する」ところが大好きです。

そして、「ほかにききたいことある人?」と言われて、たくさん手が挙がった中から、一人の子が指名されました。そうしたらその子は、なんと「どんな『音』が好きですか?」と質問したのです。

わたしも、自分はどんな「音」が好きなんだろうと、頭の中で真剣に考えてしまいました。

さらに驚いたことに、「どんな『音』が好きですか?」と質問された子は、まったく困った様子も見せず、「『ぼちゃん』です。水たまりに足を入れたときの音。」と胸を張って答えたのです。

子どもは、本当に豊かな感性を持っているんだなと感心してしまいました。

大人は「どんな音が好きですか?」ときいたり、そういう質問に答えたりするようなことは、ほとんどないような気がします。

こういう子どもの自由で、広がりのある発想が、新しいものを生みだし、新しい世界をひらいていくのではないのでしょうか。

毎月行われる、いつもの誕生会ですが、こういう日々の教育活動を丁寧に積み重ねていくことが、子どもたちの持っている良さや可能性を引き出し、伸ばしていくことに繋がるのだらうと思っています。

